

2014 年度大学院キャリアパス形成支援のためのアンケート調査（調査の概要）

【調査の概要】

調査方法	WEB サイト
調査対象	全大学院生
調査目的	大学院キャリアパス推進室が実施するセミナー等の基礎データとして活用する
調査実施期間	2014 年 9 月 16 日(火)～2014 年 11 月 14 日(金)
回答数(回答率)	307 名(11.2%) ※昨年度 169 名(5.7%)
調査内容	(1)研究活動に対するモチベーション (2)経済状況と奨学金の認知度 (3)キャリア観

① 1 週間の生活実態（参照：調査結果 図表 1 - 2 1～図表 1 - 2 5）

- ・ 文系は研究業績数が多いグループほど研究学習時間数が長い。

② 研究会の参加状況および研究会活動支援制度の利用状況（参照：調査結果 図表 1 - 6、P 2 2 図表 2 - 1 6、P 2 4 図表 2 - 2 2）

- ・ 研究会への参加率は 53.4%であり、大学院生の半数以上が参加している。特に、後期課程の参加率が高く、74.0%の参加率である。
- ・ 前期課程 35.0%、後期課程 41.6%の大学院生が研究会活動支援制度の存在は知っているが申請したことがない状況である。利用状況も前期課程 6.5%、後期課程 15.6%と非常に低い。支援制度をもっと活用してもらえよう大学院生に広報する必要がある。

③ 研究活動等とともに進めていく仲間の存在（参照：調査結果 図表 1 - 8）

- ・ 約 80%の大学院生に様々な仲間がいるものの、進路のことで相談できる仲間は少ない。特に、後期課程では、文系 55.2%、理系 52.6%の院生に進路のことで相談できる仲間がいない。進路について相談できる仲間を作る支援も必要である。

④ 研究業績の必要数(総必要数/全回答者数)および実績数(総実績数/全回答者数)（参照：調査結果 図表 1 - 1 4）

- ・ 院生全体が国内学会発表の研究業績をあげる必要があると感じているが、前期課程では実績数 0.5 と実績を残せていない。後期課程では実績数 1.38 と実績を残すことができている。
- ・ 文系は前期・後期とも、必要と感じている業績をあげるが出来ていない。一方、理系では特に後期課程で国内外の学会発表で必要と感じている以上の業績をあげるができている。

⑤ 大学院生の収入状況（参照：調査結果 図表 2 - 1）

- ・ 大学院生全体の月額平均収入は、138,353 円であり、昨年度 123,619 円より約 15,000 円収入

が増加している。

- ・ 後期課程の文系 192,421 円と理系 110,368 円では収入に約 2 倍もの差が見られ、分野による収入の差が大きい。
- ・ 前期課程と後期課程理系の収入の内訳については約 50%が奨学金を占めており、大学院生にとって貴重な財源であることがわかる。

⑥ 研究助成制度の認知度・利用度（参照：調査結果 図表 2 - 1 1、P 2 3 図表 2 - 1 7）

(1) 前期課程対象

- ・ 「国内・国外学会補助制度」の認知度は 73.5%であるにも関わらず、利用度は 25.2%である。知っているが利用したことがない大学院生が 42.2%も存在している。
- ・ 「国内・国外学会補助制度」以外の補助制度の認知度は約 50%。認知度の向上が課題である。

(2) 後期課程対象

- ・ 前期課程同様「国内・国外学会補助制度」の認知度は 79.2%であるにも関わらず、利用度は 50.6%である。前期課程よりは利用されているが、知っているが利用したことがない大学院生が 26.0%もいる。
- ・ 「国内・国外学会補助制度」以外の補助制度の認知度については約 60%であり、前期課程同様、認知度の向上が課題である。
- ・ 研究業績数が多いグループほど研究助成金の認知度が高く、利用度も高い傾向がある。特に、「国内・国外学会発表補助制度」については研究業績数が無いグループの認知度が約 60%(利用度 0%)に対して、研究業績数が多いグループは文系約 80%(利用度約 70%)、理系 100%(利用度 100%)であり、認知度・利用度がともに高い。

⑦ 希望する進路先（参照：調査結果 図表 3 - 1）

- ・ 理系の希望進路先について、前期課程では 89.8%の大学院生が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」を希望している。後期課程では「民間企業(開発・技術・エンジニア)(約 57.9%)」と「教育研究機関研究者(大学、研究所等)(68.4%)」に二極化している。
- ・ 文系の希望進路先について、前期課程では進路先の偏りは見られないが、後期課程では 75.9%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」を希望している。

⑧ 進路先を選択する基準（参照：調査結果 図表 3 - 4）

- ・ 80%以上の大学院生が重視する項目は「専門性を生かせる」「業種・事業内容」「雰囲気・イメージ」「安定性」「将来性」「給与、福利厚生への待遇」である。「親・大学の推薦」については 42.7%であり、項目の中では最も低いものの、考慮している院生も一定存在する。